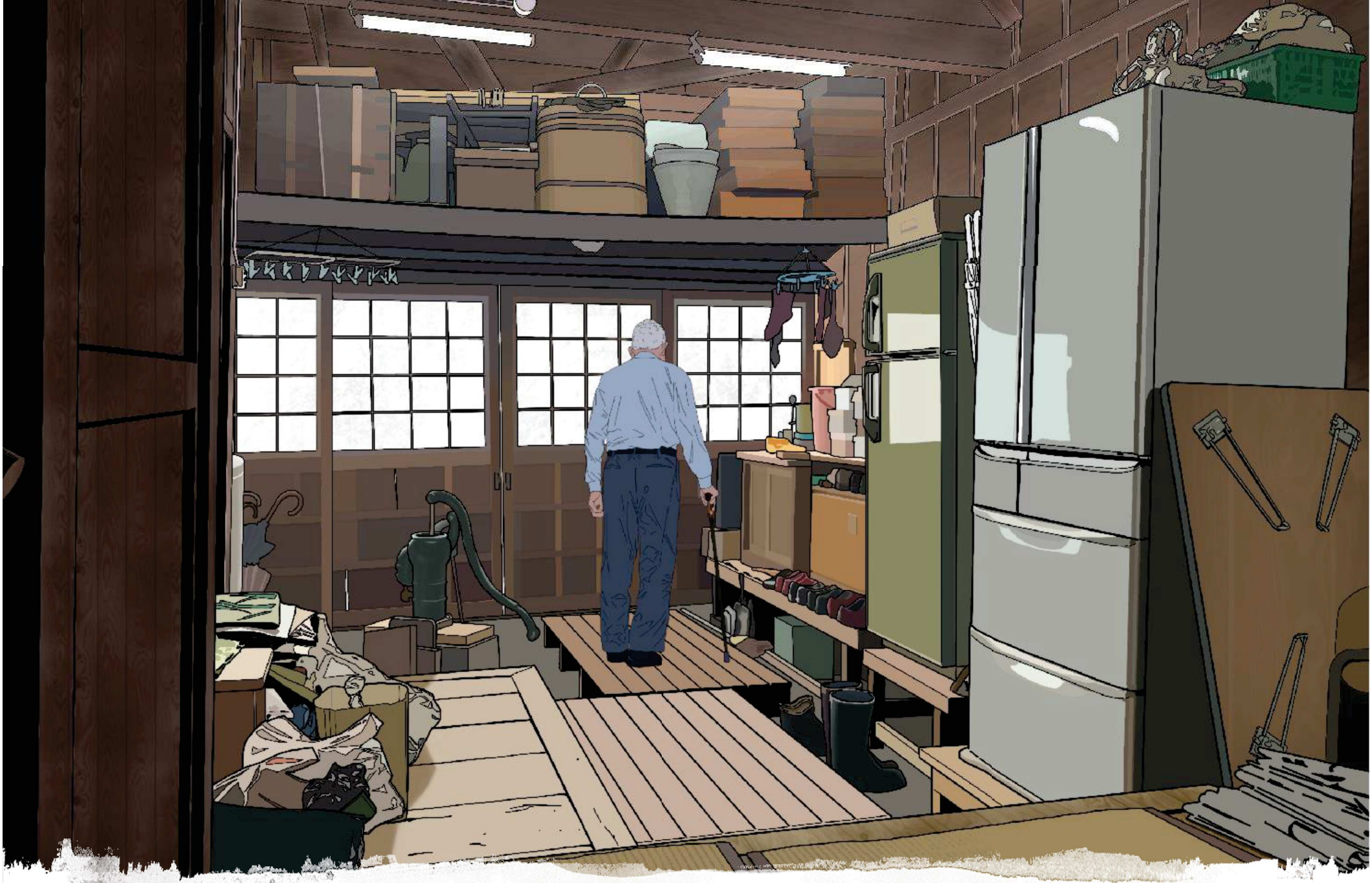


田島さん家

17N1039 小林奏平　17N1083 西村亮　17N1081 長岡杏佳
17N1093 藤吉洸斗　17N1097 松山恭子　17N1106 矢田瑛己

今も残る佃島の特徴

入口の向き

大きな通路側に基本入口があり、奥の建物は南側を入口とする建物
が多く残っている。特に宝永７年までに残っている土地にみられる

（赤色が南側を入口とする建物）

新しく建てられた住宅にも南側の入口を採用しているものが多くみられた。逆に、もともと南側に入口があるが、大きな通路に面しているため、利便性のために新しく通路側に設けている住宅あった。

また、細い路地のため新旧ともに引き戸の家が多くある。

井戸の使われ方

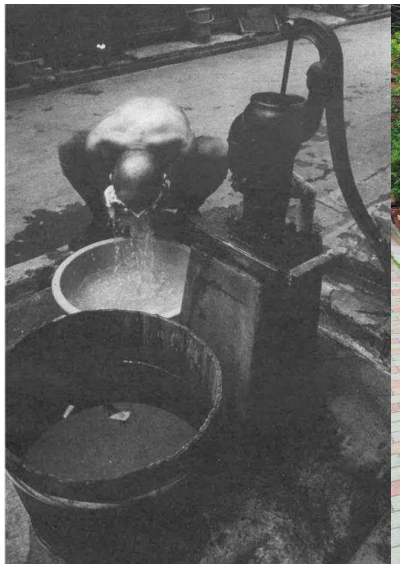
大正7年～10年(1918～21) と現在

大正時代には多くの井戸が残っていた

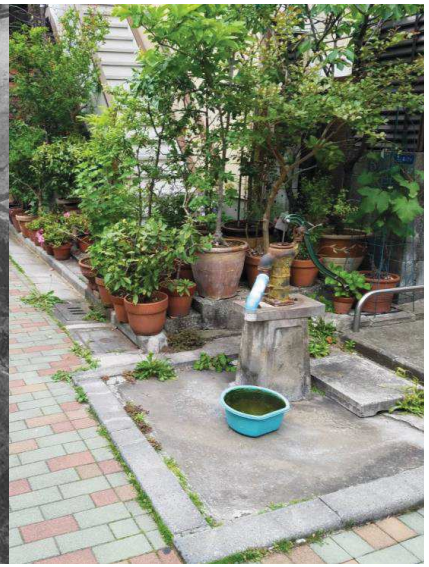
漁が盛んな時代では、魚を洗うため に

昭和の時代には 体を洗ったり生活用水 として利用

現在は、花壇の水やり として主に利用されている

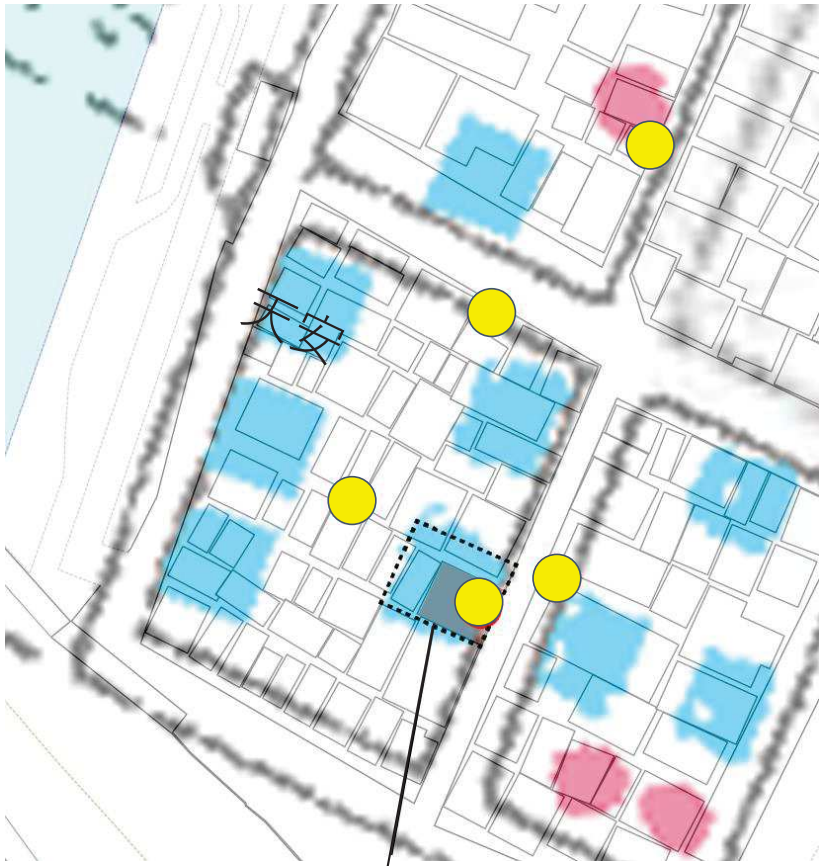


昭和43年



現在

井戸の使われ方



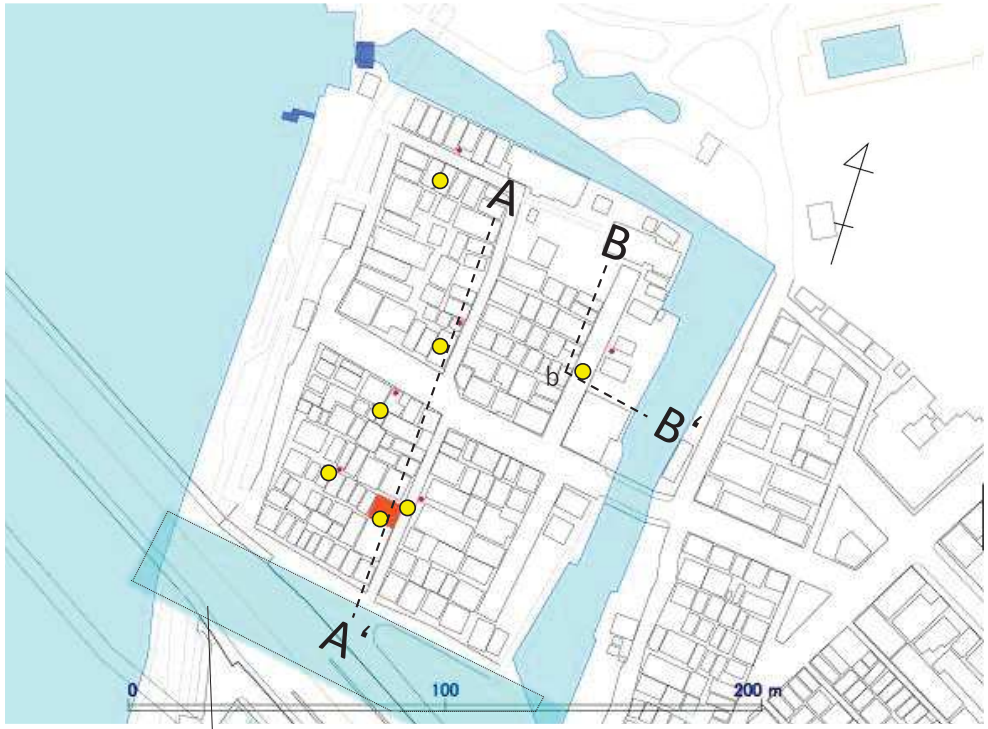
調査住宅

天安

青枠近隣の住宅

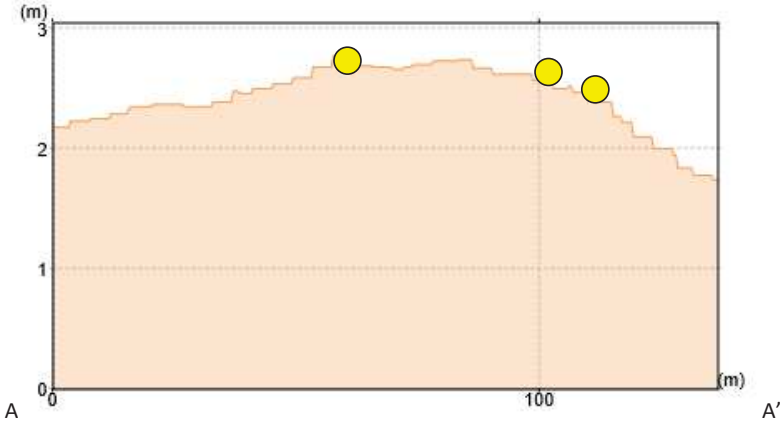
元々井戸があった場所には一部その痕跡が残っている
佃煮屋天安には内部に溜まった井戸の水を抜くための
取り外し可能な部材が残っている
また、水が外部に抜けるように削られた穴のある玄関
もあった

井戸と地形の関係

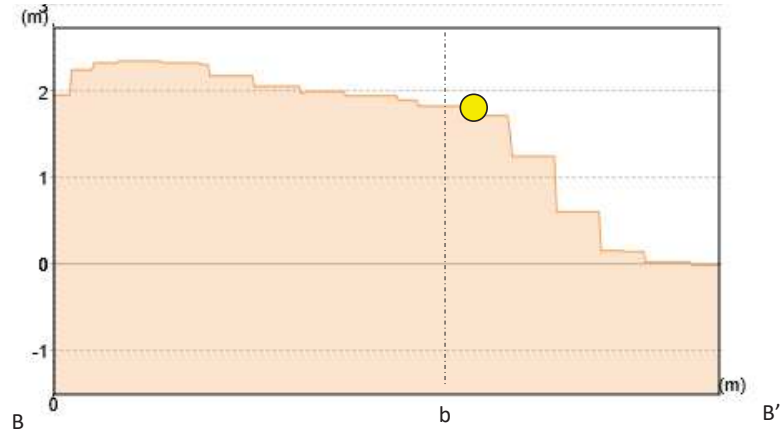


以前は川につながる水路があった

井戸　　断面線



A - A‘断面図



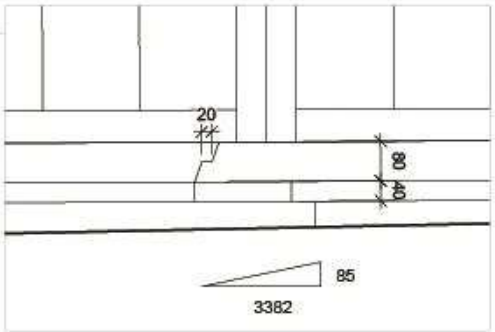
B - B‘断面図

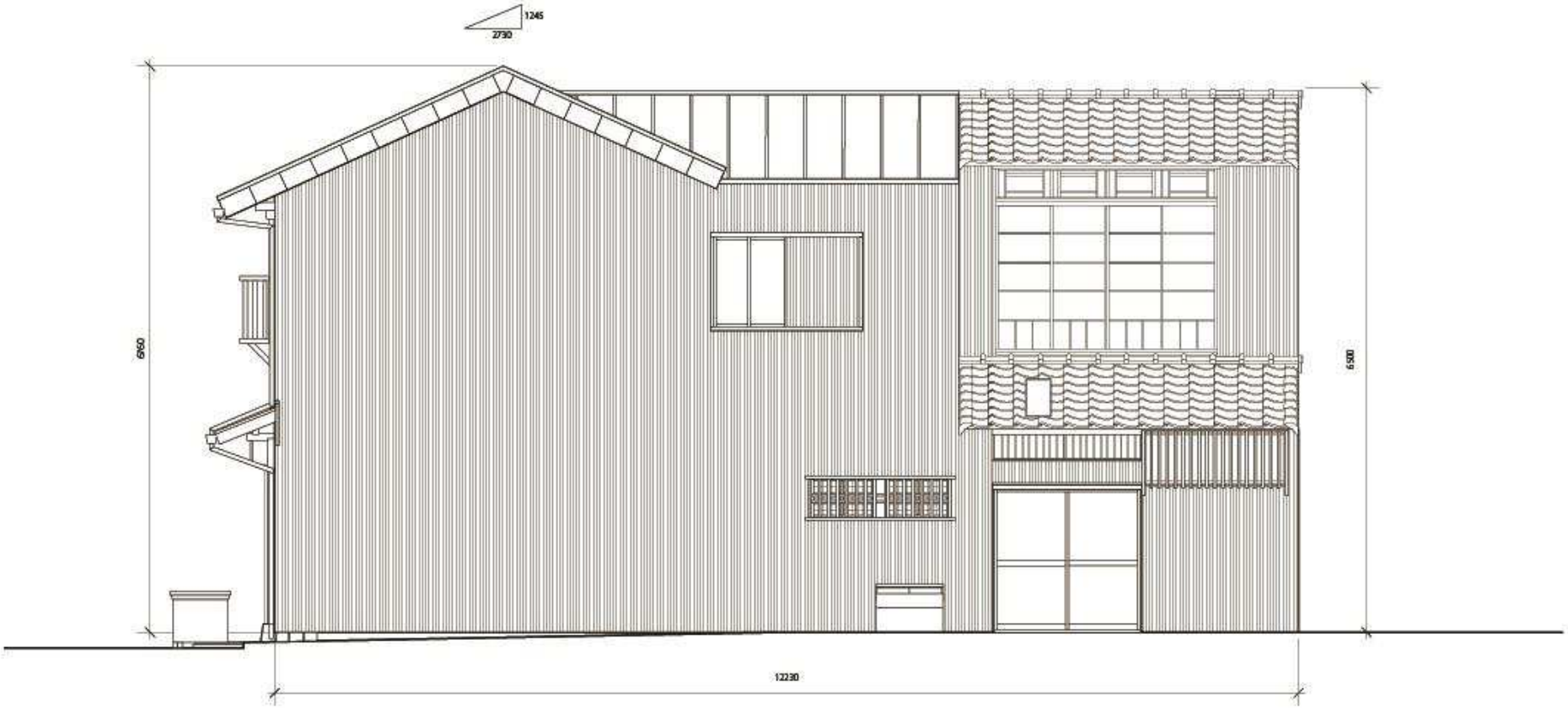
地形を利用して水が流れるように井戸が配置されている

配置図　1:600(A3)

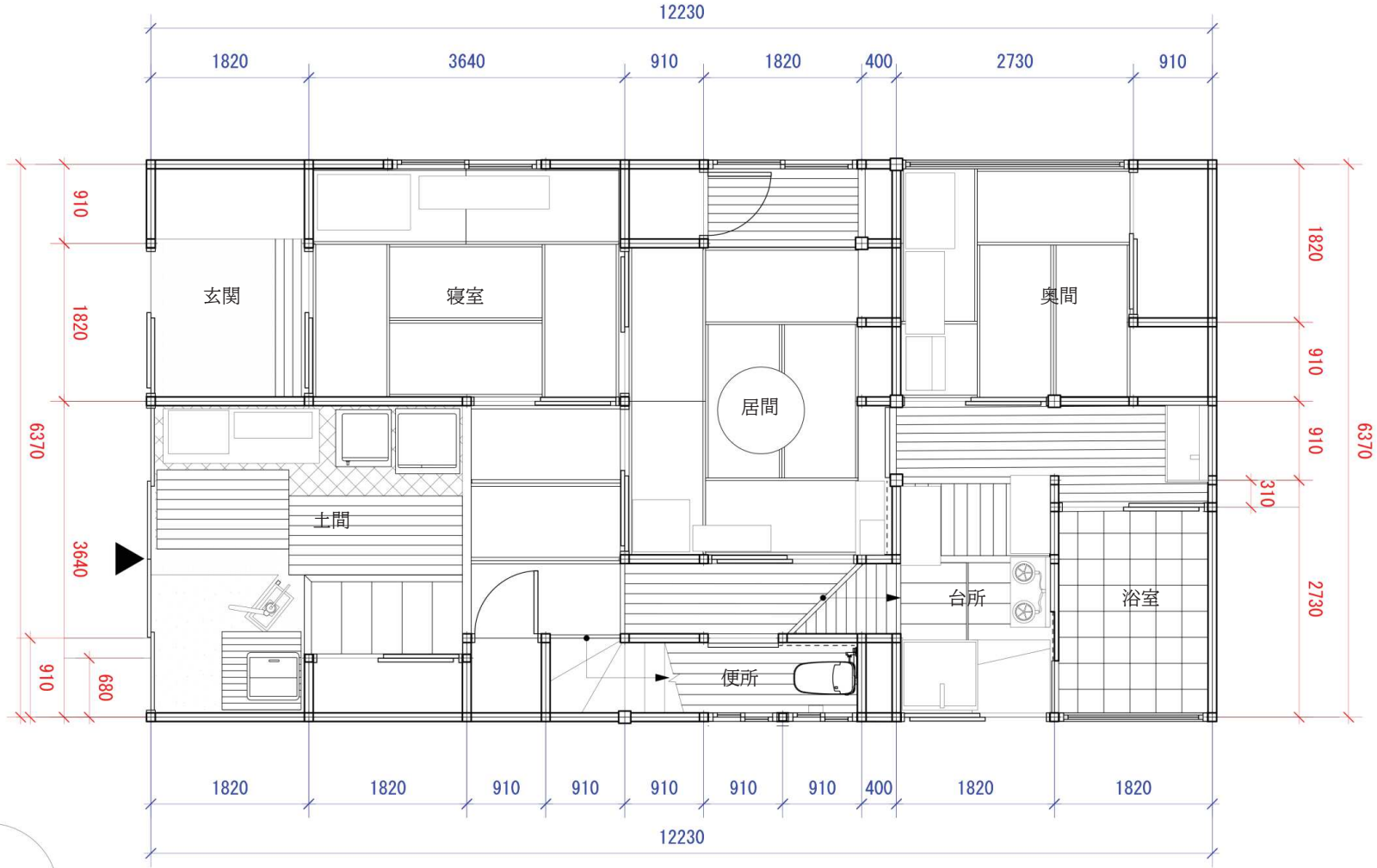
両側の路地は細く、一階部分の窓にはプライバシーを意識した格子が設置されている
正面には戦前貴重であったガラスの装飾が見られ、裕福な家であることがわかる。

東側立面図　1:50 (A3)

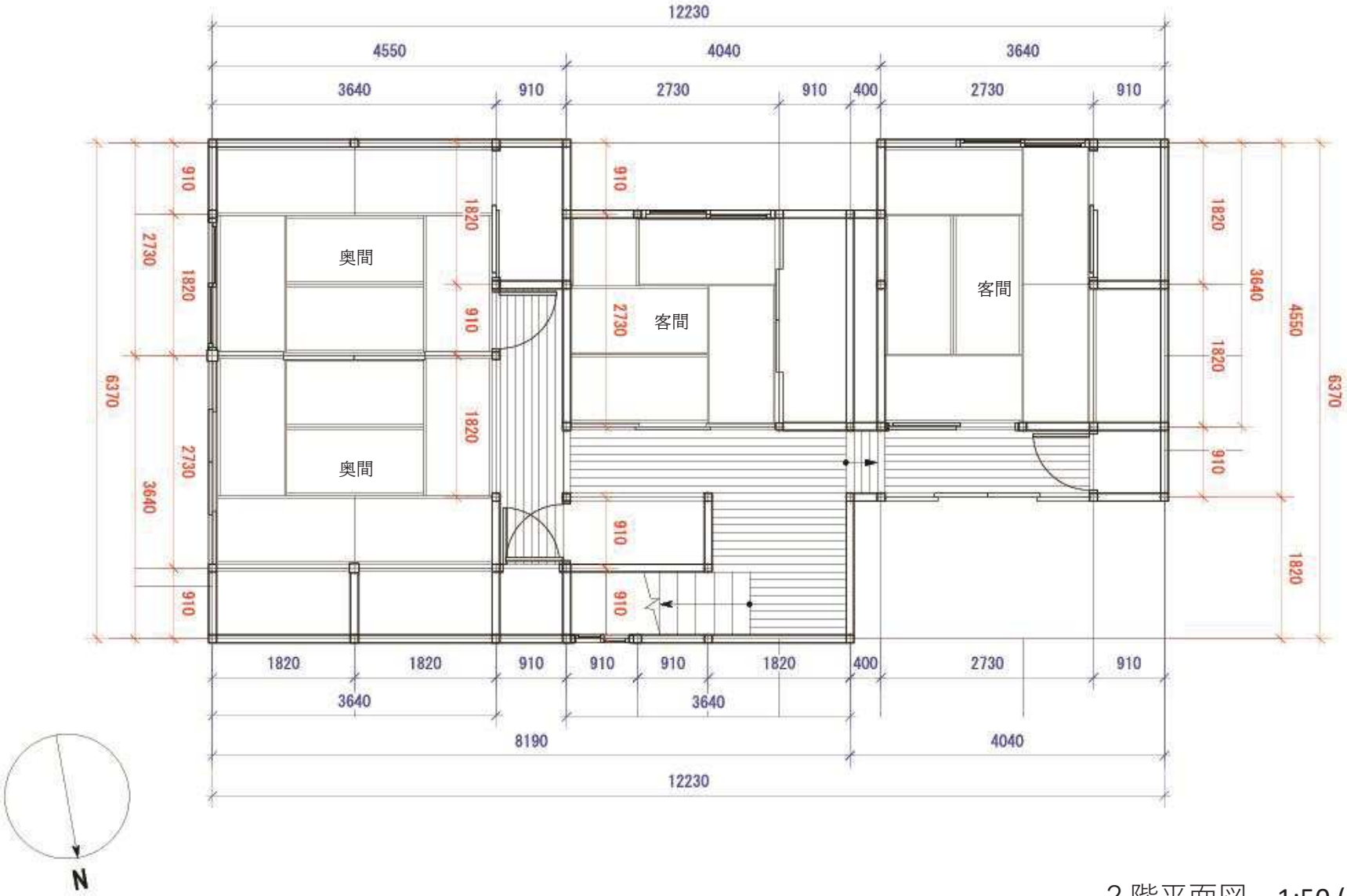




北側立面図　1:50 (A3)

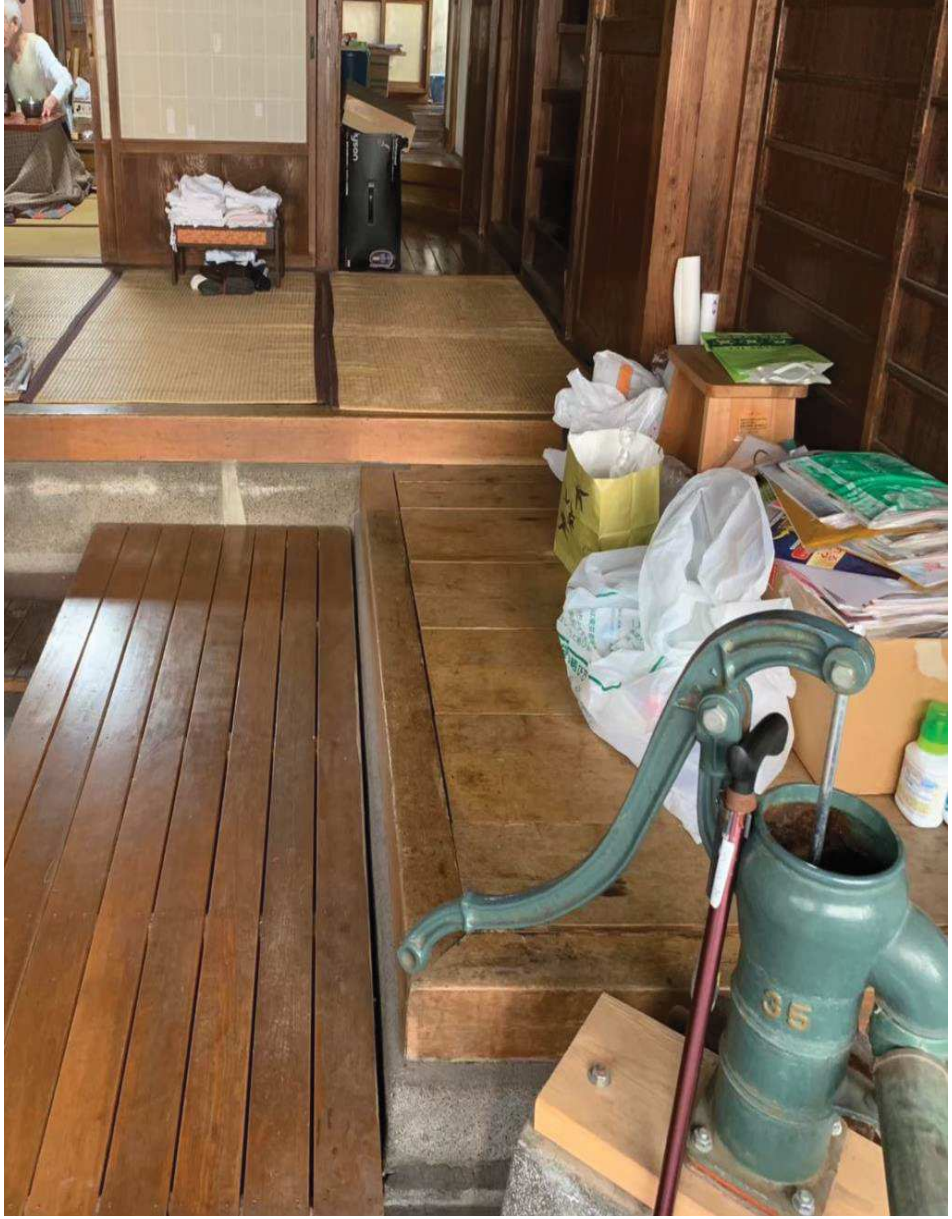

12230
1820
3640
910
1820
400
2730
910
玄関
寝室
居間
奥間
土間
台所
浴室
便所
6370
910
1820
3640
910
680
1820
910
310
2730
1820
1820
910
910
910
910
910
400
1820
1820
12230
N

1 階平面図　1:50 (A3)

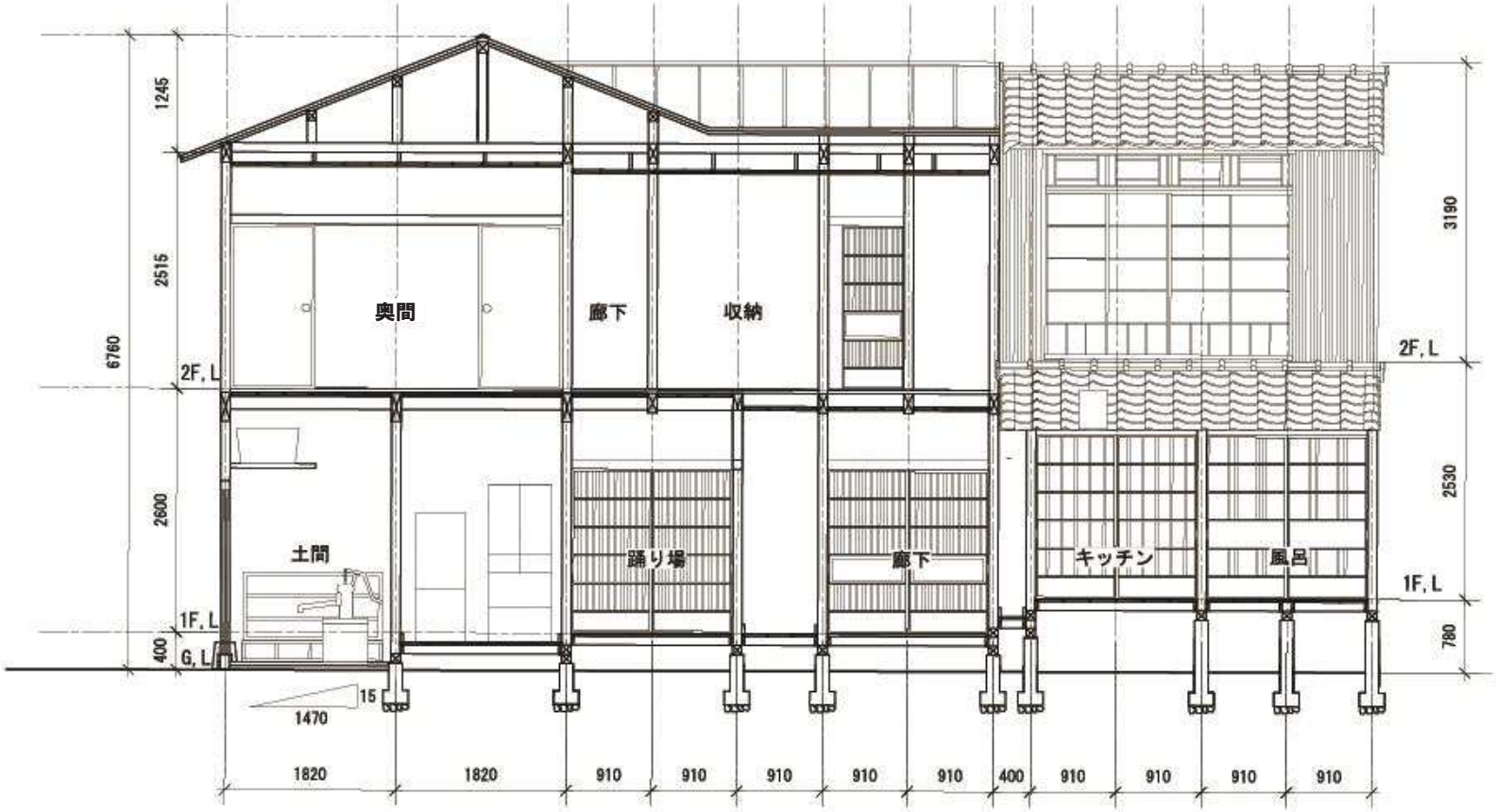

12230
4550
4040
3640
3640
910
2730
910
400
2730
910
910
2730
1820
910
1820
910
2730
3640
6370
奥間
奥間
客間
客間
1820
910
1820
910
1820
3640
4550
6370
910
1820
1820
910
910
910
910
910
1820
1820
910
910
910
1820
400
2730
910
3640
3640
8190
4040
12230
N

2 階平面図　1:50 (A3)

今は使われていない漁の道具や魚を入れる木箱
玄関真上の棚に置かれている



玄関入ってすぐ右側に井戸がある
漁の道具を洗うスペースのために土間が縦長になっている


6760
1245
2515
2600
400
2F, L
1F, L
G, L
奥間
廊下
収納
土間
踊り場
廊下
キッチン
風呂
3190
2530
780
2F, L
1F, L
15
1470
1820
1820
910
910
910
910
910
400
910
910
910
910

断面図　1:50 (A3)

漁家住宅では、魚や漁の道具を洗うために水を多用する

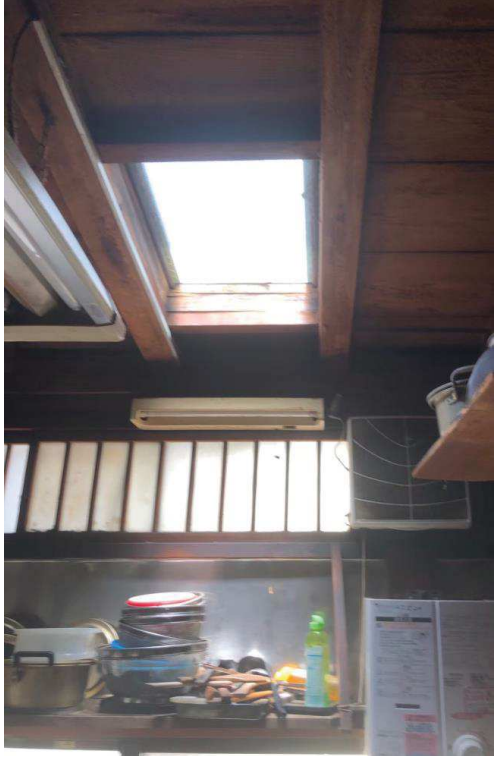
多くの水を効率よく外に出さないといけない

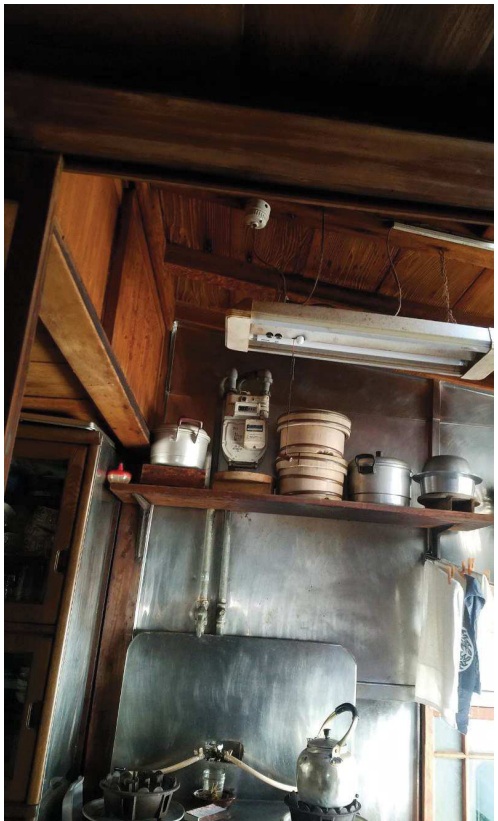
↓

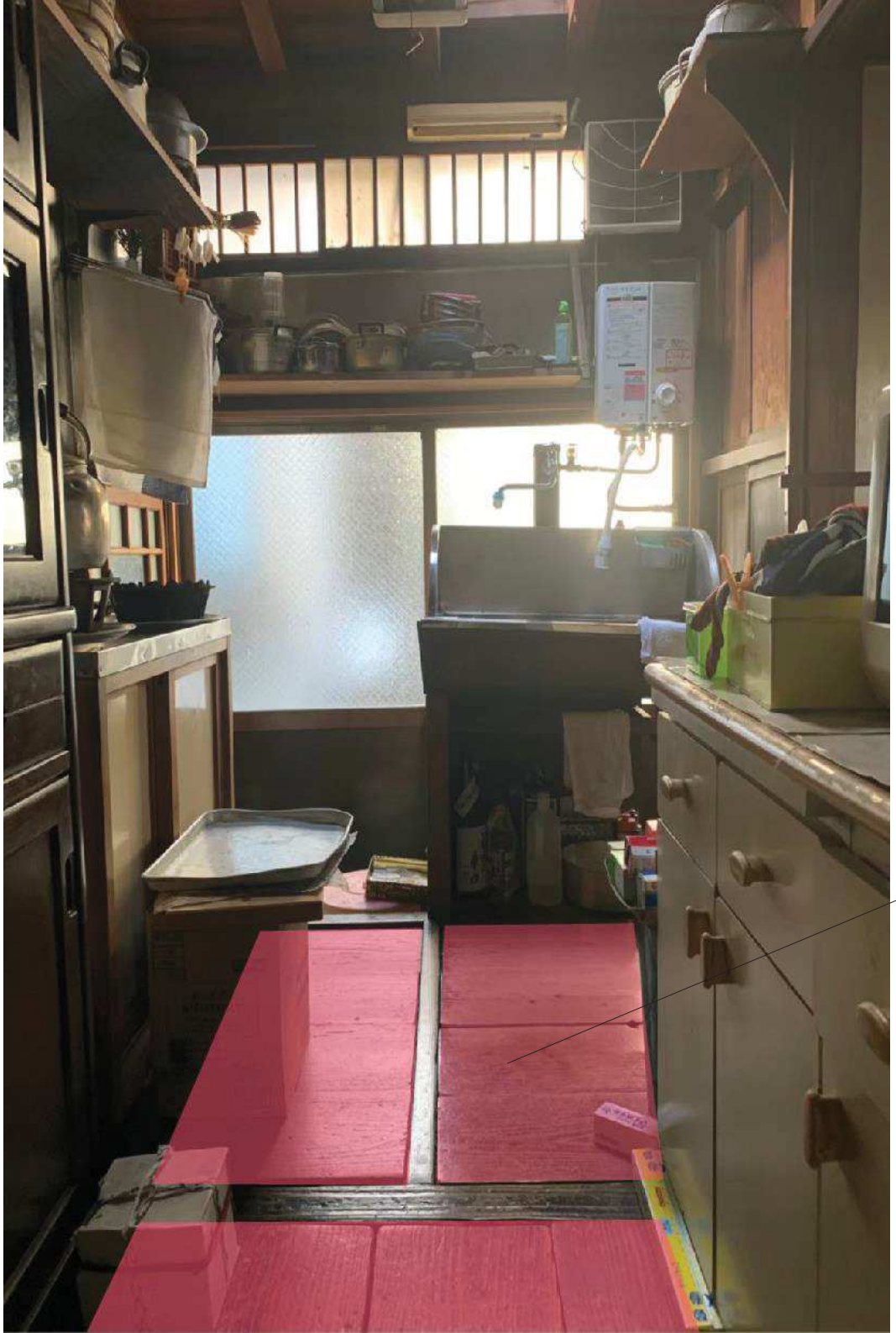
正面のドアとその土台が取り外し可能に

↓

玄関から道路側へ
そのまま斜面の傾斜によって川へと流れる





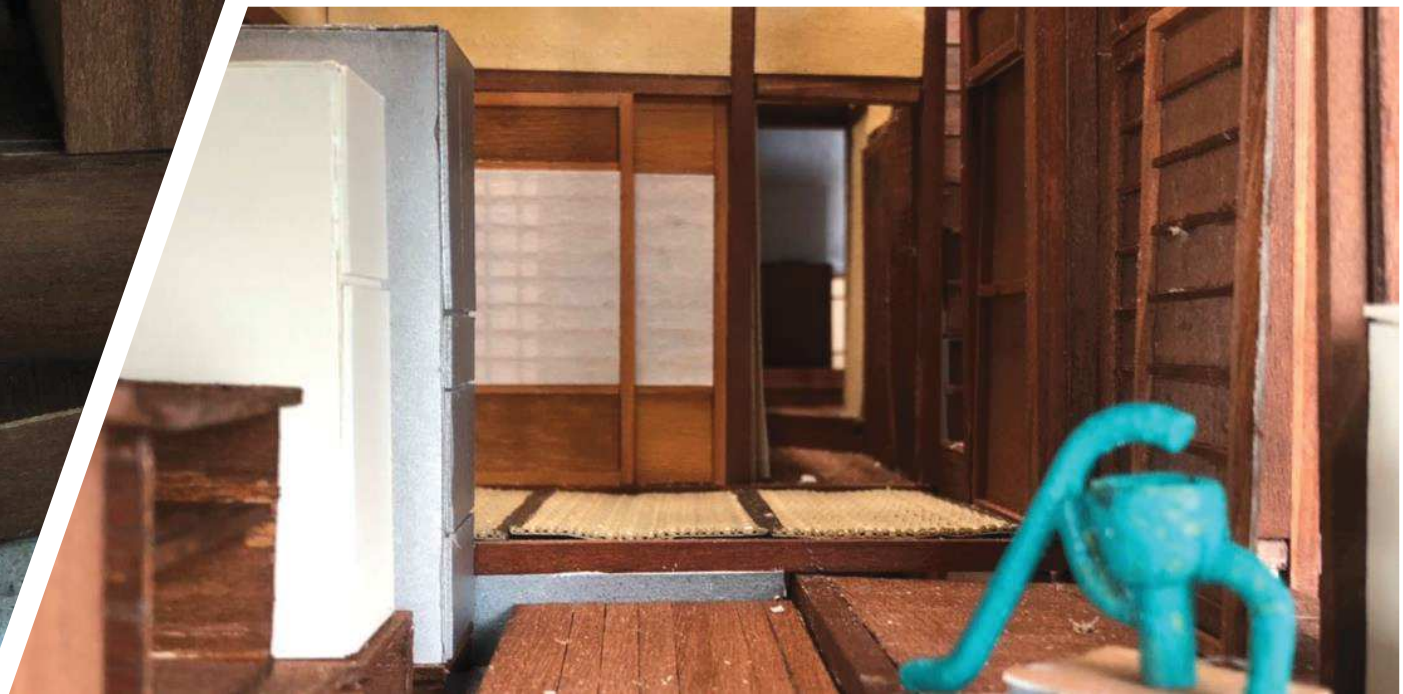


台所

台所横には外に通じるドアがある
また、床の下には収納スペースが
隠されている

天井には天窓がついており、上部
から光を取り入れている

現在は床下収納は使われておらず、
棚が設置されている



まとめ

- 建物が密集した佃島のなかでプライバシーや採光の工夫がされている
- 地形の斜面を考慮した井戸の配置

漁家住宅ならではの用途が建築に影響を与えている

- 漁の準備作業が行えるための十分なスペース
- 入口付近に設けた道具用の棚
- 効率よく水を排出できる入口
- キッチン床下の収納　保存？

裕福な家の豪華な装飾

- 貴重で大きな板部材を使用している
- 装飾的な柱（竹や他とは形が異なる）
- 二階部分は現在は使用されていないが、一階より装飾的になっており、客間としても利用されていたのではないだろうか

fin.